



AWS公共パートナーネットワーク(PSN)セミナー

IT基盤の環境変化に対応する AWSマイグレーション

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社
パブリックセクター統括本部
パートナーアカウントマネージャー 坂口 雄一郎
パートナーソリューションアーキテクト 深井 宣之

自己紹介

坂口 雄一郎 (Yuichiro Sakaguchi)
アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社
パブリックセクター 統括本部
パートナーアカウントマネージャー

- ・ 2023年1月1日にAWSへ入社
- ・ 前職 (一貫して省庁/自治体/外郭/文教/医療の公共分野に従事)
→国内SierにてNWエンジニア6年、直販営業12年
→外資系セキュリティベンダで直販営業5年
- ・ 好きなAWS (?) : Amazon Kinesis Data Streams



はじめに

- 近年、ハードウェアの納期遅延や調達コストの高騰、仮想化ソフトウェアライセンス体系変更等、IT基盤を取り巻く環境は大きく変化しています
- 本ウェビナーでは、このような環境変化を受けて、AWSが新たなIT基盤の選択肢となりうる理由について解説します
- また移行を確実に進めるための効果的なアプローチとともに、実際のお客様事例も交えてAWSマイグレーションの全体像をご紹介します
- 今回は初級レベルの内容として、AWSやクラウドの知識がない方にもご参加いただける内容です

アジェンダ

1. IT基盤を取り巻く環境変化
2. AWSが選ばれる理由
3. AWSマイグレーションの進め方
4. MAP
5. お客様事例

IT基盤を取り巻く環境変化



ハードウェア価格高騰・納期遅延

価格高騰

エンタープライズ
サーバ

↑ **8-15%**

メモリ
(1 TB以上RAM)

↑ **15-25%**

エンタープライズ
SSDストレージ

↑ **12-20%**

リードタイム長期化

- リードタイムは6-12か月に延長している
- 多くの現場では納期が読めないというのが実態
- 新たな製品のリリースも先送りになっているケースも

※ AWSによる調査

セキュリティリスクの高まり

ランサムウェア被害

- 2024年ではグローバルで59%の組織がランサムウェアの被害に遭う（出所：Sophos）
- 25年9月にはアサヒビールのランサムウェア被害が大きな話題に。受注・出荷システムが2か月以上停止
- 病院に対するランサムウェア等の攻撃が増加し、長期にわたり診療が停止した事例も確認されている
- 大学や専門学校でも学生・教職員の個人情報ターゲットにされた被害が増えている

Claude Mythosを巡る動き

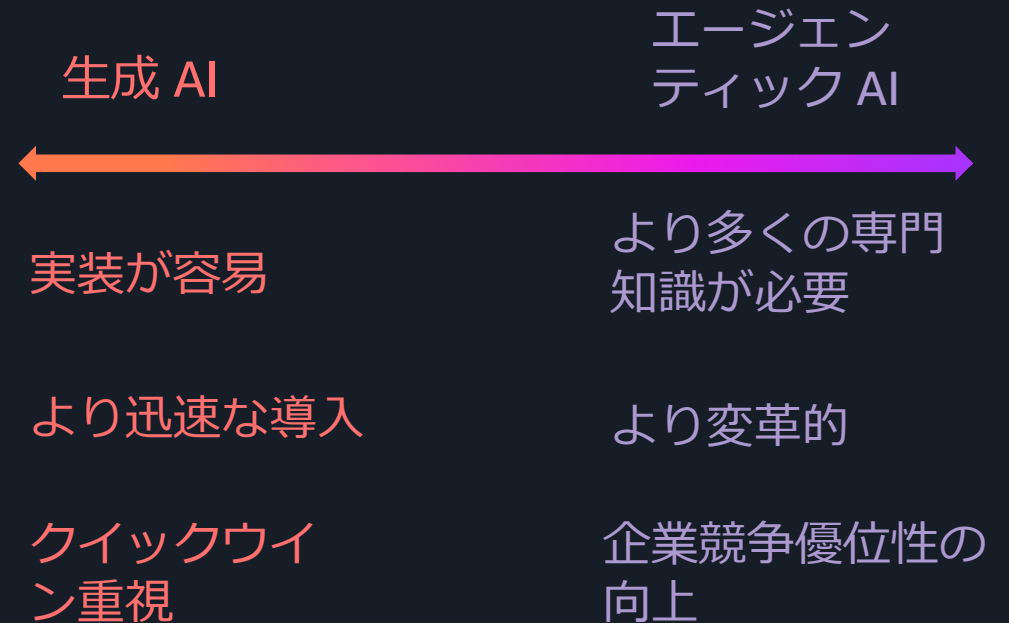
- Claude Mythos:サイバーセキュリティに特化した最新AIモデル。ソフトウェアの脆弱性を自律的に発見する
- Mythos 公表の二日後から、米・カナダ・英・EU・日本の主要金融当局が一斉に対応開始。片山金融担当相が官民共同の作業部会設置
- 日本も政府全体として早急に対応する方針を表明。重要インフラ事業者への注意喚起や対策強化を要請

AIの進化 | エージェントAIは急速に成長しており、必要な戦略的価値と専門知識も高まっています

お客様はエージェントAIを実装する準備ができています...



...そして彼らの期待は進化しています
各テクノロジーに最も関連する特性



AWSが選ばれる理由



AWSが選ばれる理由

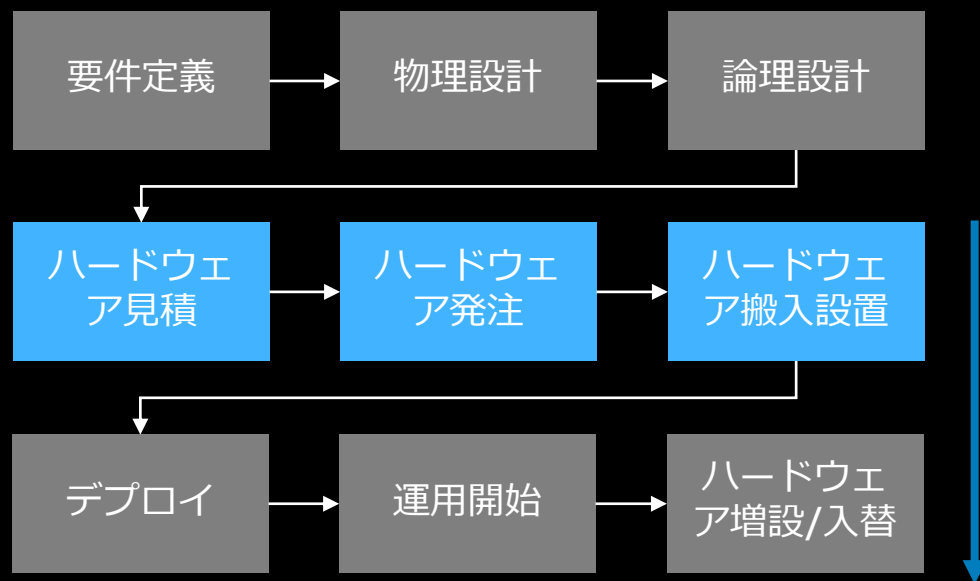
- ITリソース調達時間の短縮
- AI時代に対応するセキュリティ
- コスト最適化
- 最新AIサービスへのアクセス
- 継続的な値下げ
- 移行を成功に導くためのソリューション
- 耐障害性と高可用性

ITリソース調達時間の短縮

AWS を利用することで、従来、オンプレミスでの IT リソース導入につきものであった高額な初期費用、緻密なキャパシティプランニング、稼働までの多くの時間と労力などをなくし、わずか数分で必要な IT リソースを調達できます。

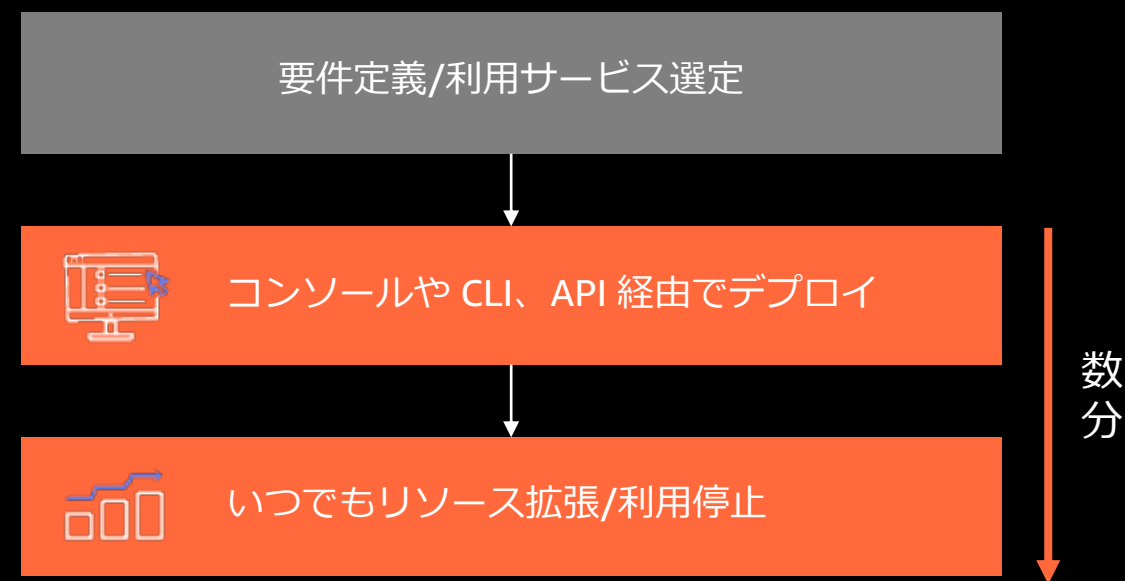
オンプレミス

複雑なプランニングと長いリードタイムが求められる
新しいインフラストラクチャの構築



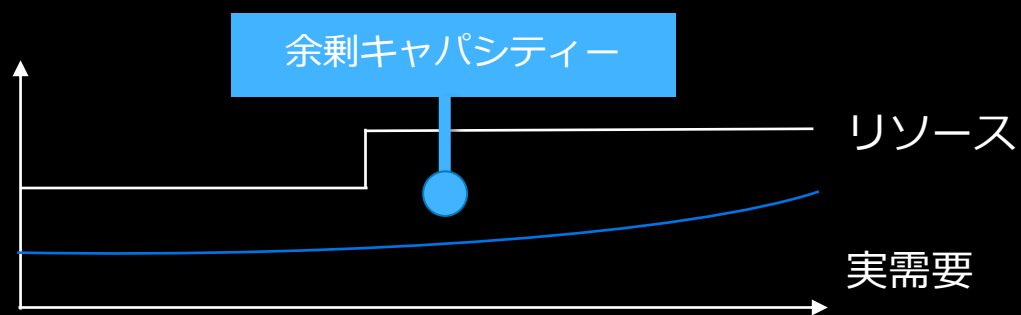
AWS のクラウド

マネジメントコンソールや CLI*、API 経由での操作で
初期費用なし、わずか数分で IT リソースが用意可能

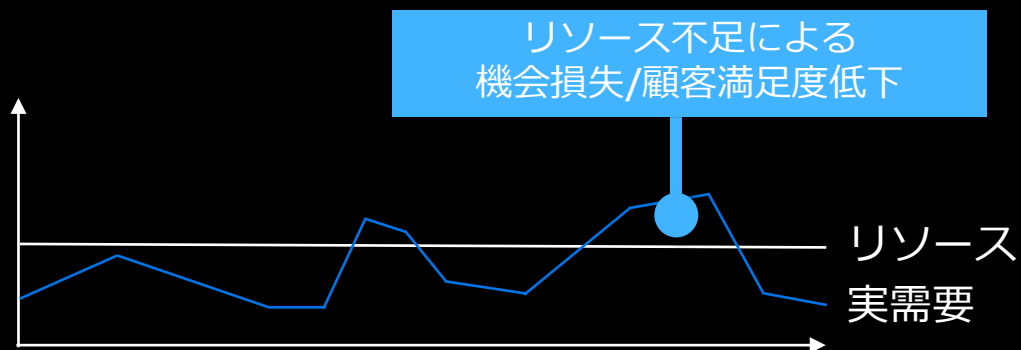


コスト最適化

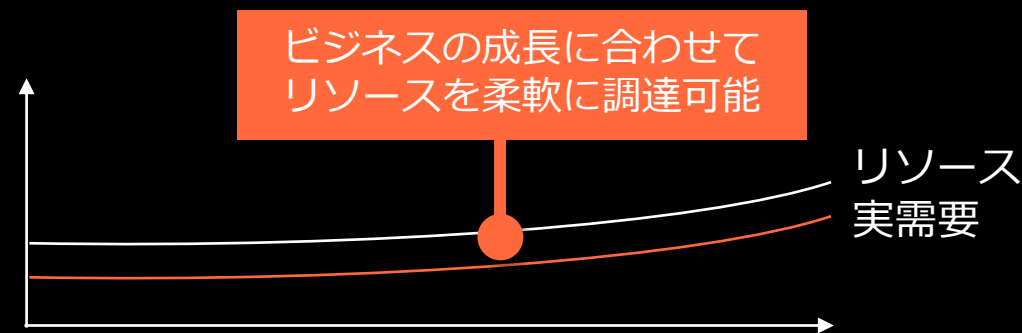
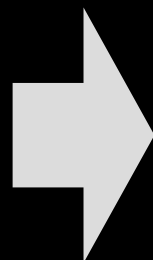
必要な時に必要なだけリソースを使えるように。緻密な需要予測と初期投資は不要。



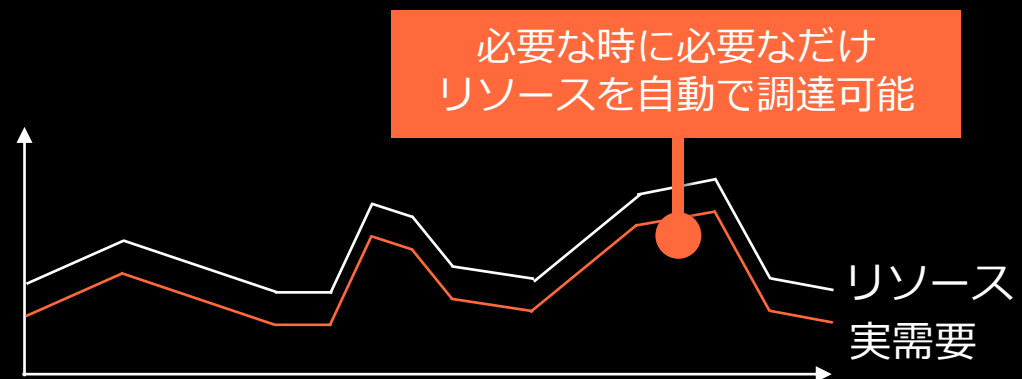
オンプレミス: 常に必要以上の投資



オンプレミス: 予測できないピークによる機会損失



AWS: 無駄のない投資

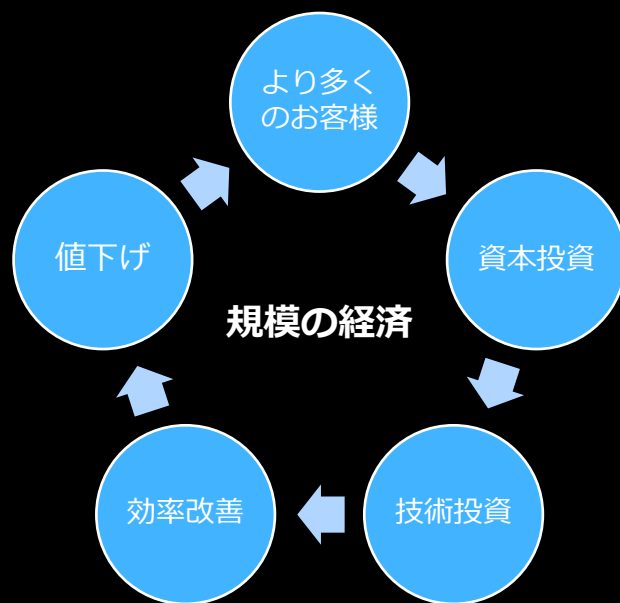


AWS: 自動、手動でスケールアウト、スケールインが可能

継続的な値下げ

AWS は 2006 年のサービス開始以降、非常に早いスピードで提供規模を拡大し、実質的に制限のない IT リソースを提供。このスケールメリットを生かし、コスト低下分をお客様に還元するべく値下げを実現しています。

規模の拡大とイノベーション

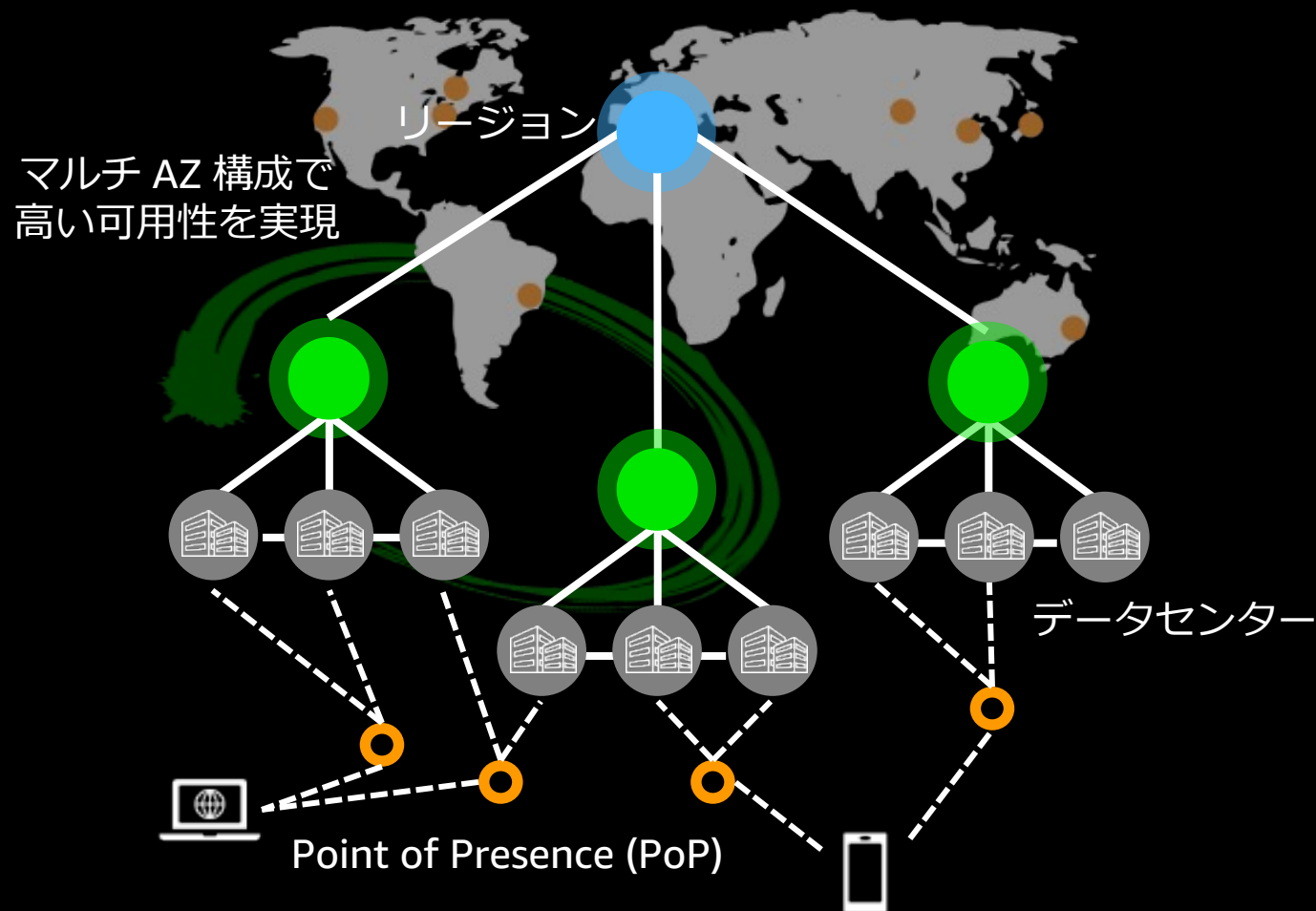


コストダウンを推進



AWS グローバルインフラストラクチャ

耐障害性と高可用性を実現



すべてのリージョンは物理的に離れた場所にある複数のアベイラビリティゾーンで構成



複数のアベイラビリティゾーンでシステムを構成することで、高い耐障害性を実現

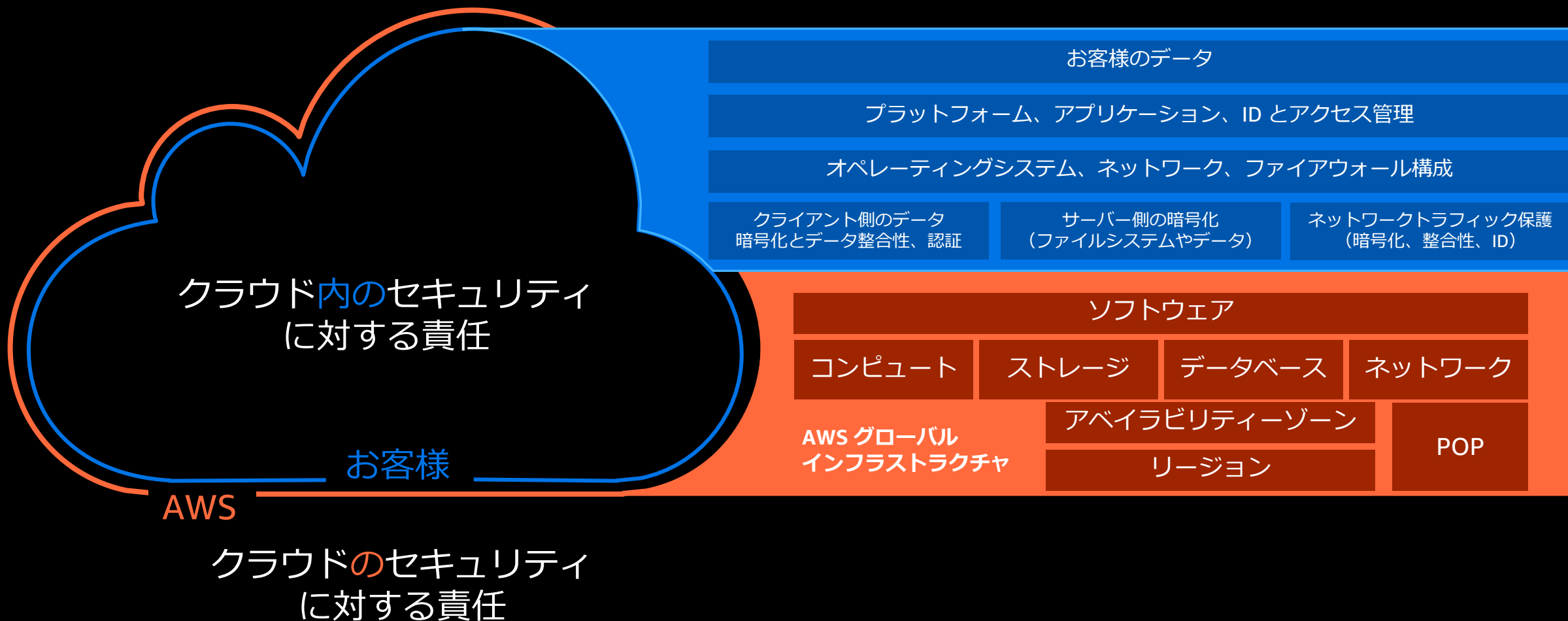


アベイラビリティゾーンは1つ以上のデータセンターで構成され、互いに低遅延な専用線で接続



世界中で600か所以上に配置されたPoint of Presenceからの低レイテンシーな高速転送で世界中のユーザーにコンテンツを安全に配信

AWS における責任共有モデル



AWSクラウドセキュリティ

AWS はクラウドコンピューティングの先駆者として、セキュリティを最優先事項としてお客様のイノベーションに迅速に対応可能なクラウドインフラストラクチャーを創造してきました。セキュリティ機能の実装や厳格なコンプライアンス要件へ対応でお客様は最も柔軟かつセキュアなクラウドコンピューティング環境を実現可能です。

AWS コンプライアンスプログラム

セキュリティとコンプライアンスのために AWS に導入されている堅牢な管理は、独立した監査人によって評価されています。これにより、AWS はお客様のコンプライアンス要件への準拠をサポートしています。

コンプライアンスプログラムの例



AWS コンプライアンスプログラム <https://aws.amazon.com/jp/compliance/programs/>

クラウドセキュリティのためのサービス



アイデンティティ & アクセス管理



脅威の検出と継続的なモニタリング



インフラストラクチャとデータの保護



インシデントへの対応



コンプライアンス

ISMAPの認定

政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP) は、パブリッククラウドサービスのセキュリティを評価するための日本政府のプログラム

(ISMAP 登録プロバイダーとして申請するために、ISMAP に基づいて承認されている第三者評価機関に評価を委託して、ISMAP セキュリティ要件を満たしているかどうかを評価してもらう必要がある。)

政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP)

概要

政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP) は、パブリッククラウドサービスのセキュリティを評価するための日本政府のプログラムです。ISMAP の目的は、クラウドサービスプロバイダー (CSP) にとって共通の一連のセキュリティ標準が、政府調達のためのベースラインとなる要件を満たせるようにすることにあります。ISMAP は、クラウドサービスプロバイダーが実装する必要があるクラウドドメイン、運用、および手順のセキュリティ要件を規定します。クラウドサービスプロバイダーは、ISMAP 登録プロバイダーとして申請するために、ISMAP に基づいて承認されている第三者評価機関に評価を委託して、ISMAP セキュリティ要件を満たしているかどうかを評価してもらう必要があります。ISMAP プログラムは、クラウドサービスプロバイダーのセキュリティを評価し、日本政府のセキュリティ要件を満たすプロバイダーを登録します。登録プロバイダーとしての ISMAP に基づいて登録されると、政府の調達部門は、登録プロバイダーへの業務委託を加えることができます。

AWS を使用することで、AWS のサービスプロバイダーとお客様は ISMAP の要件を満たす環境を構築できます。

ISMAP とは何ですか?



ISMAP が施行されるのはなぜですか?



どのような者が ISMAP に基づく認定を受けることができますか?



AWS は ISMAP の認定を受けていますか?



はい、AWS は ISMAP 認定を受けています。詳細については、[独立行政法人情報処理推進機構 ISMAP](#) でご確認ください。

ISMAP リソース

ISMAP の概要

AWS NISC セキュリティガイドライン [日本語]



Project Glasswing: AWS はローンチパートナー

Mythos を活用した 業界横断コンソーシアム

Mythos を、世界の重要ソフトウェアを 防御するために活用

- 1 対象は、OS ・ ブラウザ ・ 金融システムを含む重要インフラ、重要なオープンソース
- 2 Anthropic が最大 1 億ドルのモデル使用クレジットを提供
- 3 90日以内に学んだことを公開レポートとして共有
対象領域：規制 ・ SDLC ・ サプライチェーンのセキュリティー
- 4 Amazon Bedrock、Google Vertex AI、Microsoft Foundry、Claude API 等を経由してパートナーに提供

主なローンチパートナー

AWS

Anthropic

Apple

Google

Microsoft

Cisco

CrowdStrike

Palo Alto

NVIDIA

Broadcom

Linux Foundation

JPMorganChase

金融機関としては JPMorganChase がローンチパートナーとして参加。追加 40 社以上の重要企業も Mythos アクセスを付与されている。

AWS の Project Glasswing への取り組み

AWS はすでに AI を活用してセキュリティ対応を高度化

- AI と自動化で 1 日 400 兆のネットワークフローを分析・監視
- AI によるログ分析：6 時間 → 7 分に短縮（50 倍の生産性向上）
- 2025 年だけで S3 バケットへの不正暗号化試行を 3 億件ブロック

Glasswing で、さらに先手を打つ

- 自社の重要コードベースに Mythos をいち早く適用し継続スキャン
- 十分にテスト済みの環境でも、新たな脆弱性を発見
- 得られた知見はお客様の防御にも還元

⇒ **AWS は脅威が出現する前に、AI を活用し大規模なセキュリティ防御を構築
発見から修正まで、お客様が気づくこともなく完了**

AWS AI ポートフォリオ

アプリケーションとエージェント

AIエージェント組込済ツール
開発、移行、ワークフロー自動化、コールセンター

フロンティアエージェント

**自律的な開発・運用
AIエージェント**

AI & エージェント開発ソフトウェア & サービス

エージェントビルダー

AIエージェントを作るための機構

AMAZON BEDROCK

AIエージェントを動かすための機構

**モデル
選択肢**

追加機能
セキュリティ・データ・モデルカスタマイズ

**AIエージェント
運用管理基盤**

インフラストラクチャ

AMAZON SAGEMAKER

基盤モデル開発

**AI Ready
データ基盤構築**

AI コンピュート

AI向けのチップ

インターフェース & プロトコル
(MCP/A2A)

セキュリティとポリシー



Amazon Bedrock

幅広いモデルの選択肢を提供 - 将来のモデル変更への柔軟性確保

AI21 labs

amazon

ANTHROPIC

cohere

deepseek

Google

Luma

Meta

MINIMAX

MISTRAL
AI

Moonshot AI

nvidia

OpenAI

Qwen

stability.ai

TwelveLabs

WRITER

Anthropic 社との戦略的提携



ANTHROPIC

生成AIの推進のために、Anthropic は Amazon と戦略的提携を発表

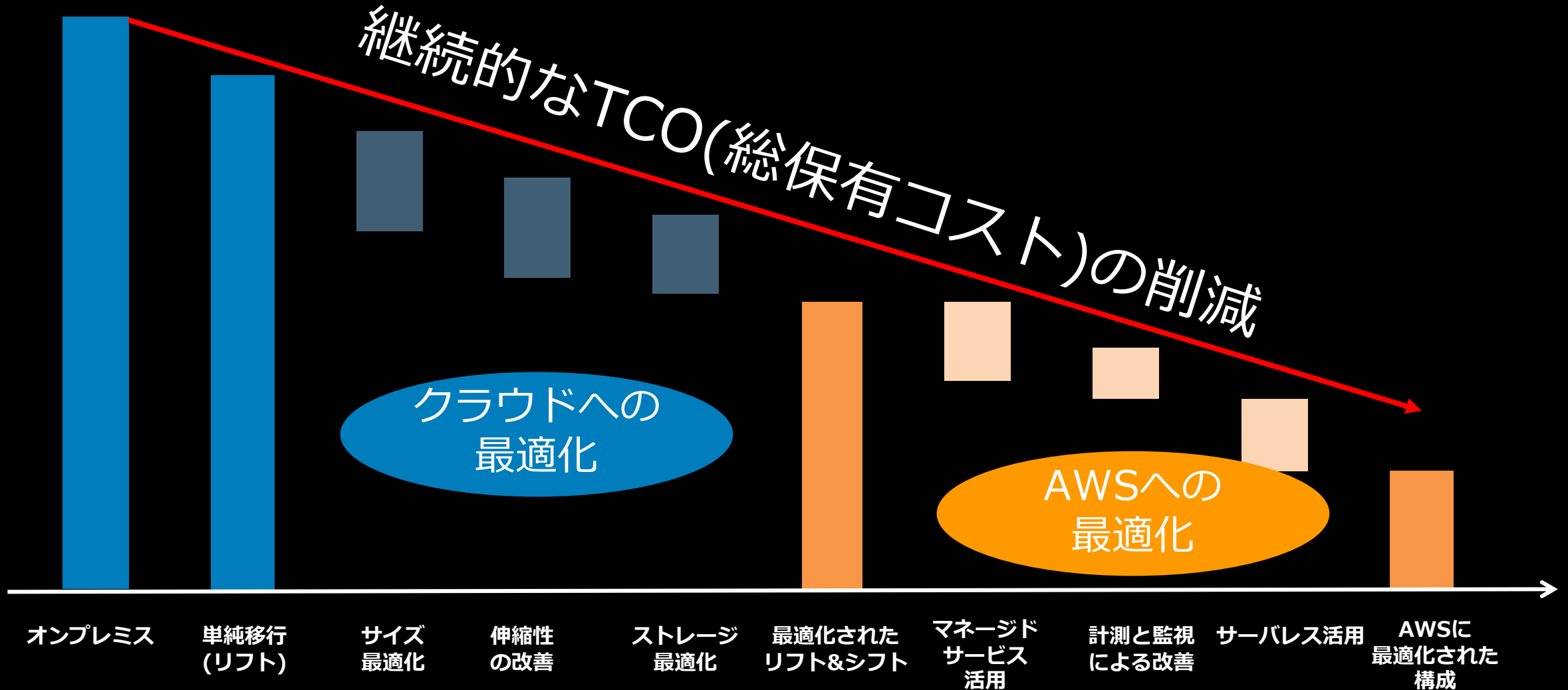
<https://www.aboutamazon.com/news/company-news/amazon-aws-anthropic-ai>



- AnthropicはAWSを主要なクラウドプロバイダーとして選択
 - 基盤モデルのトレーニングとデプロイを AWS Trainium / Inferentia チップ上で行う
- Anthropic は、ワークロードの大部分を AWS上で実行することを計画
- Anthropic は、世界中の AWS の顧客に対し、**Amazon Bedrock を通じて将来世代の基盤モデルへのアクセスを提供**することをコミット
- Amazon は、Amazon Bedrock を通じて、**Anthropicの基盤モデルを活用しAmazonの事業全体で新しい顧客体験を創造**



より最適なクラウドジャーニーを皆様と共に



AWSが選ばれる理由

- ITリソース調達時間の短縮
- コスト最適化
- 継続的な値下げ
- 耐障害性と高可用性
- AI時代に対応するセキュリティ
- 最新AIサービスへのアクセス
- 移行を成功に導くためのソリューション

AWSマイグレーション の進め方



自己紹介

深井 宣之 (Nobuyuki Fukai)

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社

パブリックセクター 技術統括本部

CSM・プロトタイピング・パートナー ソリューション技術本部

パートナーソリューション部

- 経歴：
国内独立系SIベンダー SEとして業務
公共・教育機関のお客様を担当
- 担当：
公共領域のパートナー様の技術支援を担当
- 好きなAWSサービス：
Amazon CloudFront, AWS WAF



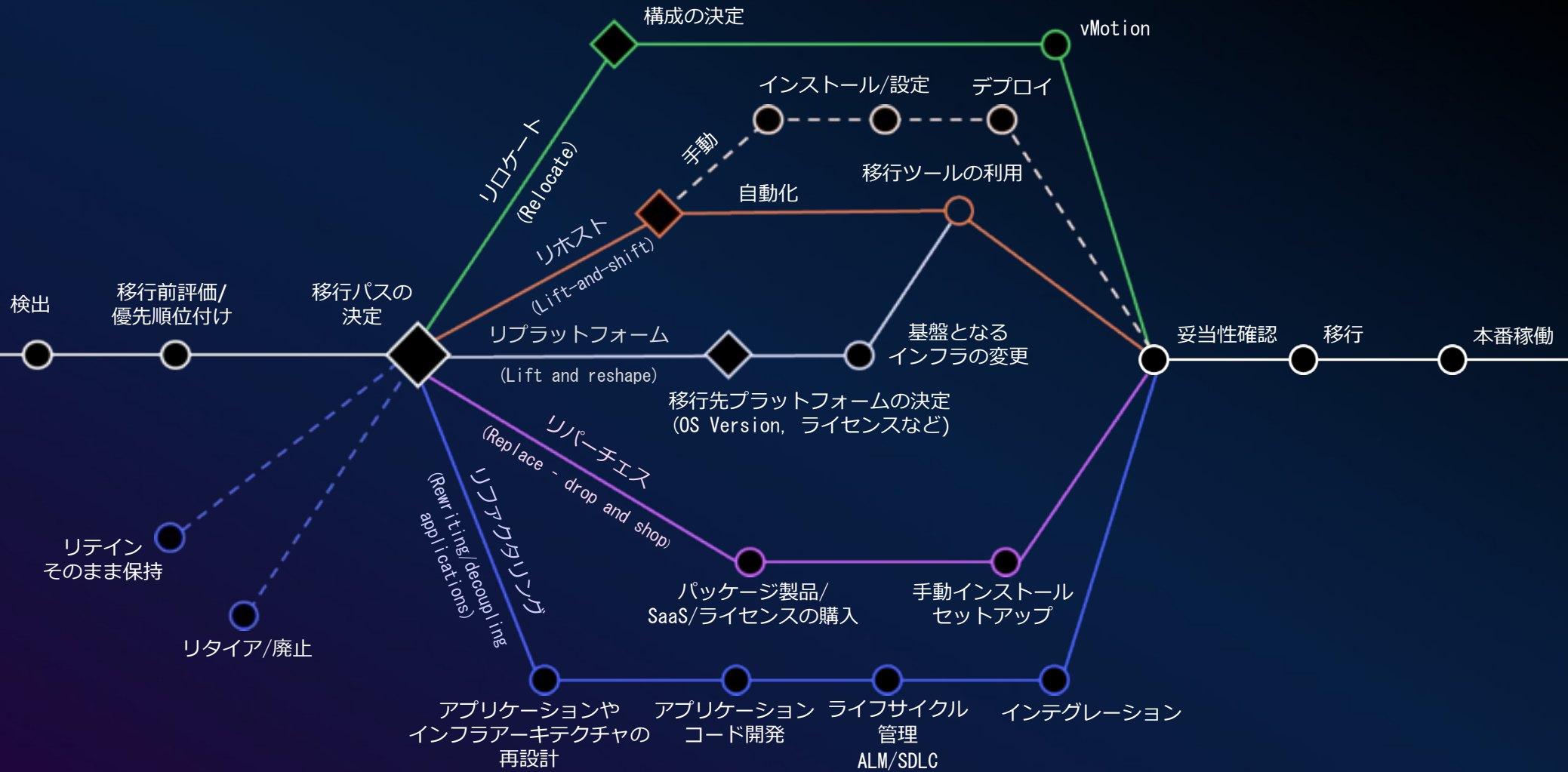
移行パス

移行パスの名称	概要	例
リロケート (Relocate)	VMware環境をそのまま移行	Amazon EVS を用いて、既存オンプレミスのVMware 環境をそのままに AWS に移行
リホスト (Rehost)	OSやアプリケーションをそのまま移行	既存オンプレミスサーバをアーキテクチャそのままに EC2 に移行
リプラットフォーム (Replatform)	OSやミドルウェアを変更/アップグレードして移行	OS やミドルウェアのバージョンアップや、RDS の採用、メインフレームや商用 Unix からの移行
リファクタ (Refactor)	アーキテクチャを再設計し、クラウドネイティブに置き換え	モリスなアプリケーションをマイクロサービス化し、サーバーレス Amazon Lambda に移行
リパーチェス (Repurchase)	アプリケーションの買い替え	SaaS やパッケージの適用
リテイン (Retain)	現行の環境で引き続き運用	クラウド移行が出来ない要件がある場合やクラウド移行による付加価値が出ない場合に選択
リタイア (Retire)	サーバやアプリケーションを停止/廃止	他システムへの統合やシステムそのものの廃止が可能な場合に選択

移行戦略について

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/prescriptive-guidance/latest/large-migration-guide/migration-strategies.html

AWS の移行戦略(7R)



移行戦略について

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/prescriptive-guidance/latest/large-migration-guide/migration-strategies.html

移行パスによる移行時間/コストとビジネス価値

ビジネス価値 ↑

Stage 3 俊敏なビジネスへの貢献 (アプリ開発のスピードと柔軟性向上)

- ・ マイクロサービス化
- ・ コンテナ, サーバーレスの活用

Stage 2 運用オーバーヘッドの削減, ライセンス料金の削減

- ・ マネージドサービス活用
- ・ 商用ソフトウェアからOSSへ
- ・ DevOps (CI/CD, IaC)

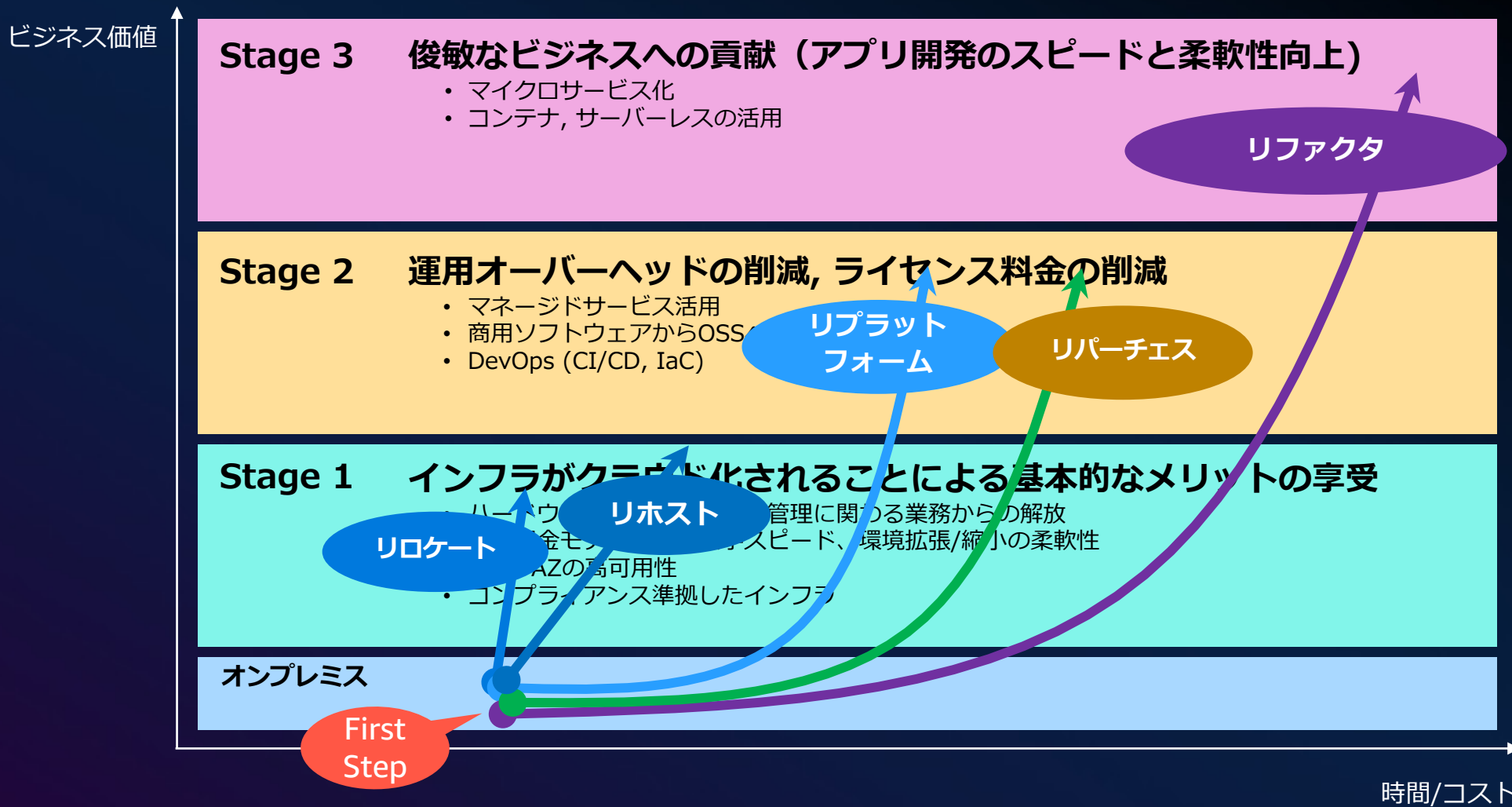
Stage 1 インフラがクラウド化されることによる基本的なメリットの享受

- ・ ハードウェア購入および維持管理に関わる業務からの解放
- ・ 従量課金モデル、環境入手スピード、環境拡張/縮小の柔軟性
- ・ Multi-AZの高可用性
- ・ コンプライアンス準拠したインフラ

オンプレミス

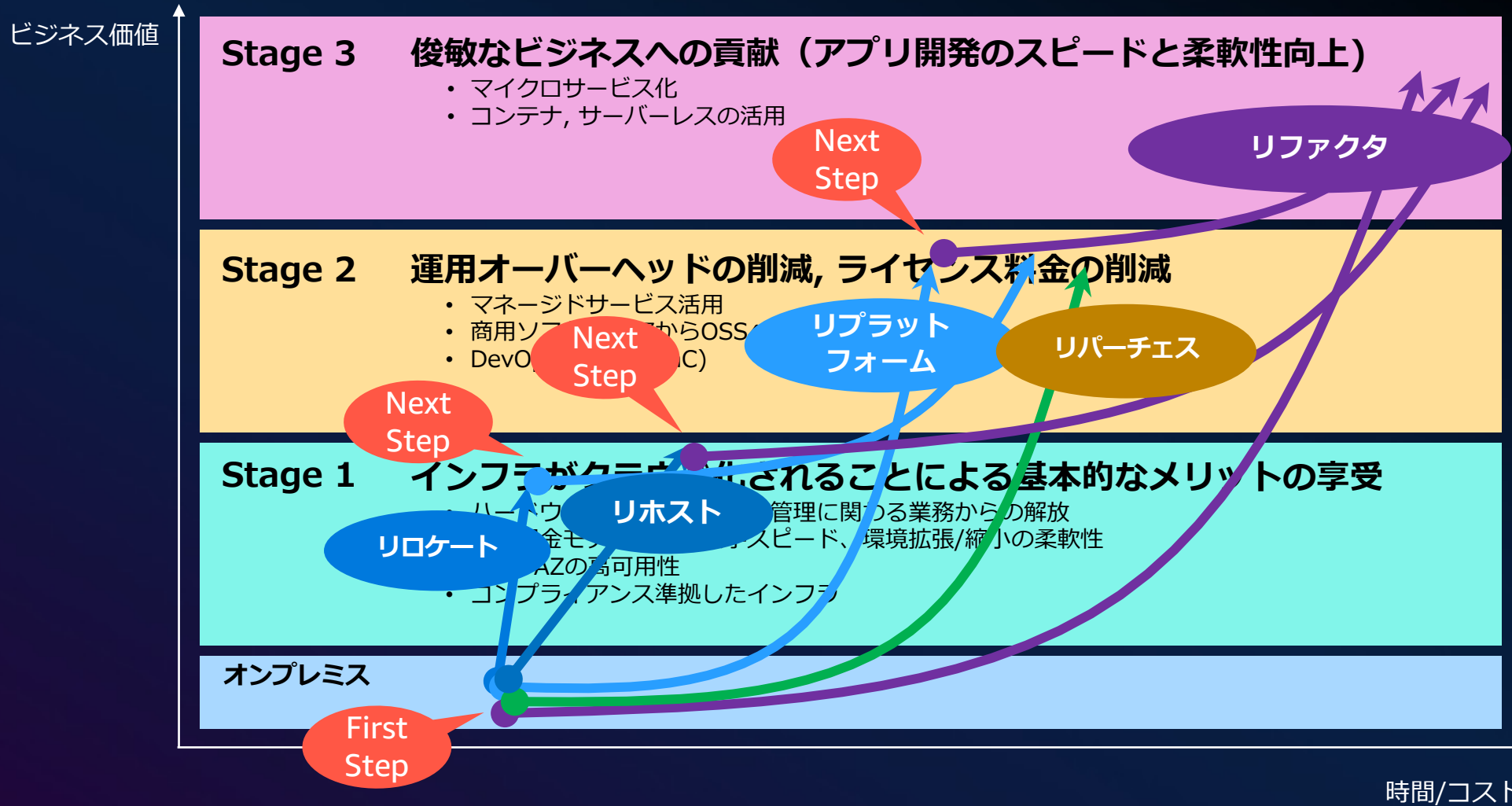
時間/コスト →

移行パスによる移行時間/コストとビジネス価値



リロケート/リホストは素早い移行が可能だが、得られるメリットは基本的なものに限定
 リプラットフォーム/リファクタでの移行は時間/コストが高くなるが、高度なクラウドメリットを享受

複数ステップの移行戦略



リロケート/リホストで早期にStage 1のメリットを享受した後、次のステップとして、リプラットフォームまたはリファクタを実施し、高度なクラウドメリットを実現する戦略も一般的

移行戦略 リロケート





Amazon Elastic VMware Service

VMware ワークロードを AWS 上に
最速で移行・運用するための方法

NOW AVAILABLE

- AWS への移行をシンプルに、そして迅速に
- クラウド内の VMware アーキテクチャの制御を維持
- セルフマネージド、AWS パートナーによるマネージド型のエクスペリエンスを選択可能
- AWS のイノベーションを活用し、ワークロードの変革を実現

Amazon Elastic VMware Service (Amazon EVS)

お客様データセンター



オンプレミス
vSphere ベースの環境



vSphere



vSAN



NSX

AWS グローバルインフラストラクチャ

AWS CloudFormation, AWS CLI, SDK



Amazon EVS



VMware Cloud Foundation



SDDC
Manager



vSphere



vSAN



NSX



Amazon
EC2



Amazon
S3



Amazon
RDS



AWS
Shield



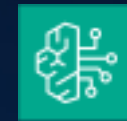
Amazon
CloudWatch



AWS Systems
Manager



Elastic Load
Balancing

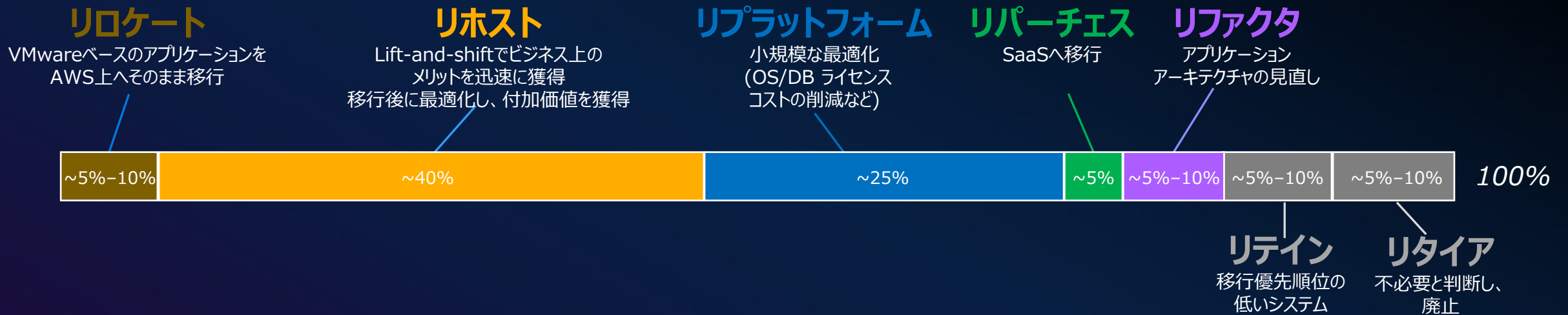


Amazon
Bedrock

移行戦略 リホスト

AWS の移行戦略(7R)に対する一般的な移行パターン

AWS の経験に基づく平均的な顧客環境の移行パターン例



多くのケースでは、**リホストで移行**しており、AWSに移行することでハードウェア保守などから解放され、その空いた工数でモダナイゼーションに注力できる

参考 : AWS re:Invent 2021 - [{New Launch} Executing a large-scale migration & modernization](#)

リホスト移行方法

2つの移行方法

移行方法	移行先のOSバージョン	移行準備	動作確認テスト
Amazon EC2 を新規構築して移行	移行元のOSバージョンを選択	移行元と同じバージョンのミドルウェア、アプリケーション設定	AWS上で動作する事を確認
Amazon EC2 に移行元からデータをコピーして移行	移行元のOSバージョン 移行元OSバージョンがサポート終了の場合、パッチが提供されないため、脆弱性を抱える	移行方法の策定	AWS上で動作する事を確認

OSバージョンがサポート終了されている、もしくは、サポート終了が近いケースは、OSやミドルウェアを変更/アップグレードする、移行パス「**リプラットフォーム**」を選択

AWS Application Migration Service



柔軟性



移行元を
問わない



多くのOSや
アプリケーションをサポート



大規模移行の対応

信頼性



無停止、継続的な
レプリケーション



ダウンタイムの
最小化



高いセキュリティ

高度な自動化



最小のスキルで
操作可能



簡単にテスト可能

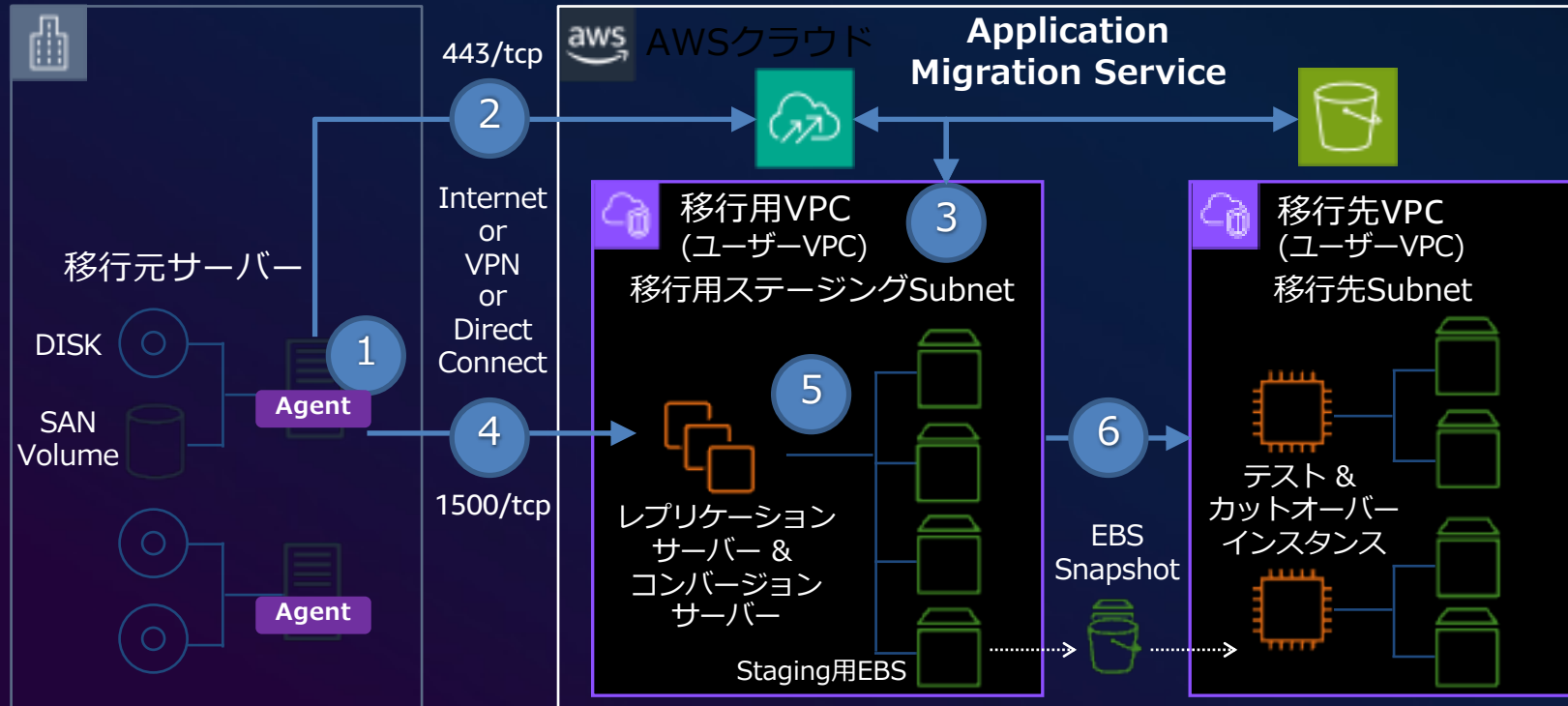


移行ステータスの
可視化・連携

AWS MGN - エージェント型 構成

特徴(エージェント型)

- エージェントはWindows/Linuxの所定のバージョンに対応、インストール後にOS再起動の必要なし
- インストール直後から初期同期が開始
- 完了後、ブロックレベルの差分データ転送(事前・夜間等)により、移行時の短い停止時間を実現



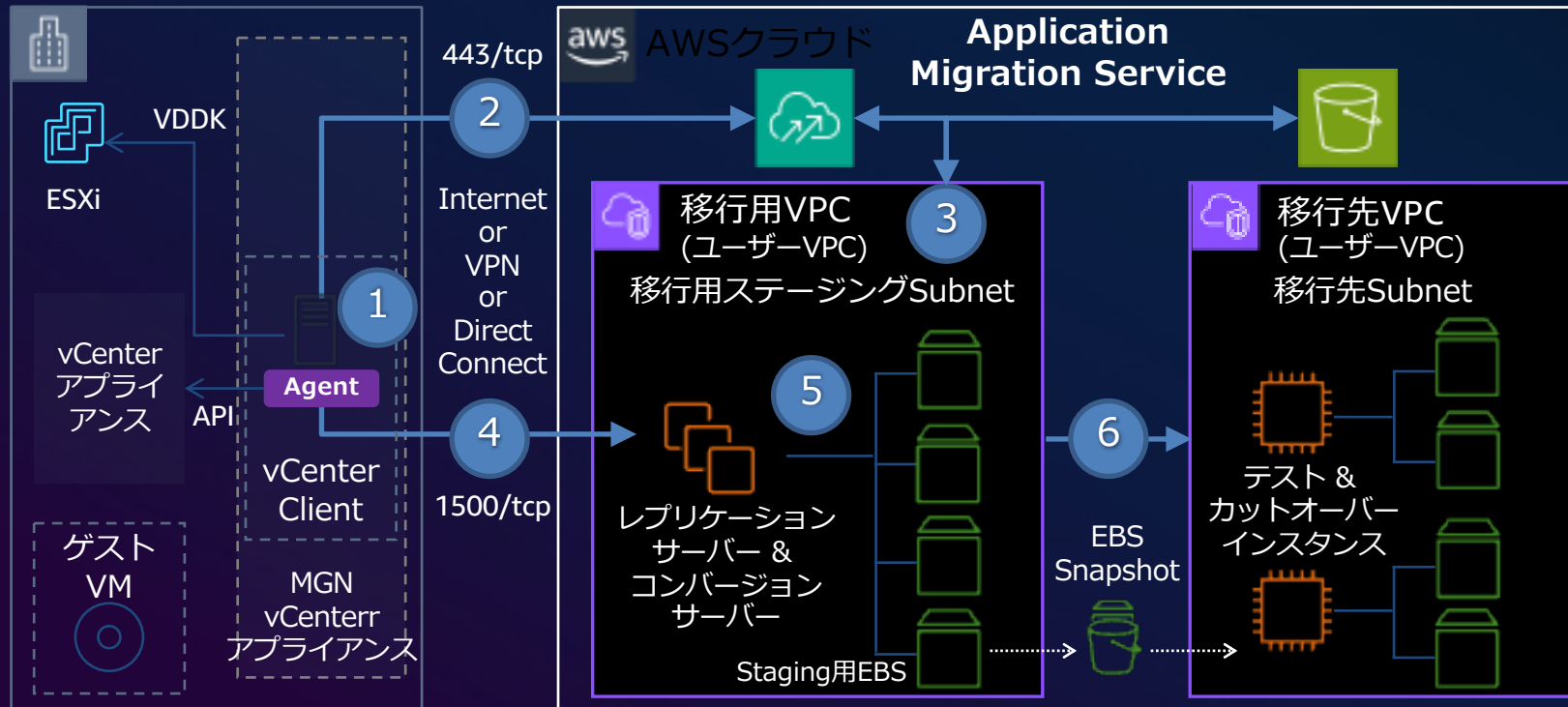
移行のステップ概要

- ✓ 事前初期設定 (ネットワーク、ライセンス、IAM設定など)
- ① レプリケーションエージェントの導入(OS再起動不要)
- ② 移行タスク作成(移行の設定を実施)
- ③ 移行用ステージング環境の自動生成
- ④ 移行タスク実行によるデータレプリケーション (初期同期完了後は差分取得)
- ⑤ 起動テスト
- ⑥ 移行先環境で起動・切替え

AWS MGN - エージェントレス型 構成

特徴(エージェントレス型)

- vCenter に MGN専用VM を起動し、AWS MGN vCenter Clientをインストール
- MGN vCenter Clientは vCenter ESXi & vCenter とAPI通信し、ゲストOS発見 & VMware Snapshot作成 を実行
- MGN vCenter Client内で vCenter Replication Agentが動作し、同AgentがSnapshotをステージング環境に送信



移行のステップ概要

- ✓ 事前初期設定 (ネットワーク、ライセンス、IAM設定など)
- ① VMware仮想アプライアンスの導入
- ② 移行タスク作成 (移行の設定を実施)
- ③ 移行用ステージング環境の自動生成
- ④ 移行タスク実行によるデータレプリケーション (初期同期完了後は差分取得)
- ⑤ 起動テスト
- ⑥ 移行先環境で起動・切替え

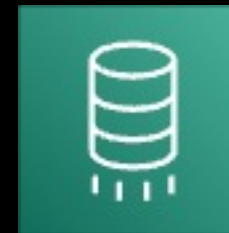
AWS MGN Agent/Agentlessの比較

種類	移行元環境	ツール導入方法	レプリケーション	どのケースで使用するか
Agent版	物理環境、仮想環境	対象サーバー (Windows/Linux)に レプリケーションエージェント をインストール	ディスクのブロック単位	カットオーバーウィンドウが 最短になるため、エージェント ベースのレプリケーションを 推奨
Agentless版	VMware の仮想環境	VMware vCenterに MGN専用VMを起動し、 AWS MGN vCenter Clientをインストール	スナップショット単位	エージェントをインストール できないセキュリティ要件が ある場合に使用

データベースの移行



AWS Database Migration Service (DMS)

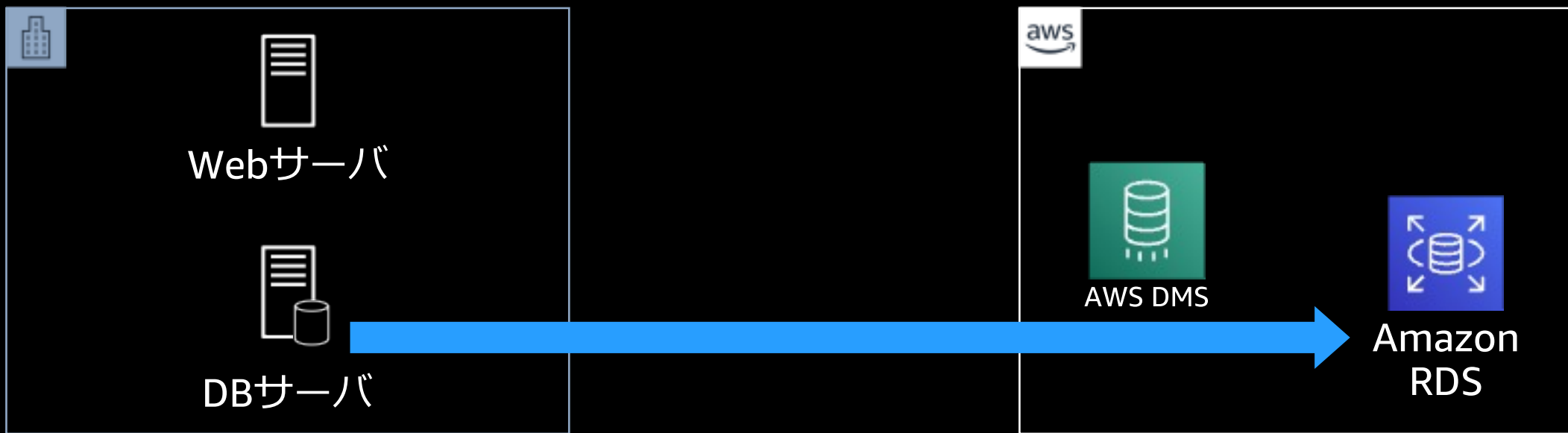


データベースを最小限のダウンタイムで移行できるサービス

- データベースの増分変更を自動転送
- 異なるDBプラットフォームの移行にも対応

対応ソース : https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/dms/latest/userguide/CHAP_Introduction.Sources.html

対応ターゲット : https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/dms/latest/userguide/CHAP_Introduction.Targets.html

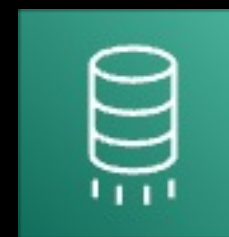


<https://aws.amazon.com/jp/dms/>

同種/異種データベース間での移行



AWS DMS



AWS DMS



Amazon Aurora



AWS DMS



Amazon S3

AWS Schema Conversion Tool (SCT)

Modernize & Migrate



データベースレイヤーの
モダナイズ
スキーマ、ビュー、プロ
シージャ、ファンクション
の大部分を**自動的に変換**

モダナイズと共にデータ
ウェアハウスを Amazon
Redshift へ**移行**
(* Snowball 連携も可能)



© 2020, Amazon Web Services, Inc. or its Affiliates. All rights reserved. Amazon Confidential and Trademark.



<https://www.youtube.com/watch?v=JHrqArrH3AE>



© 2026, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

モダナイゼーション



モダナイゼーションの課題をAIが解決

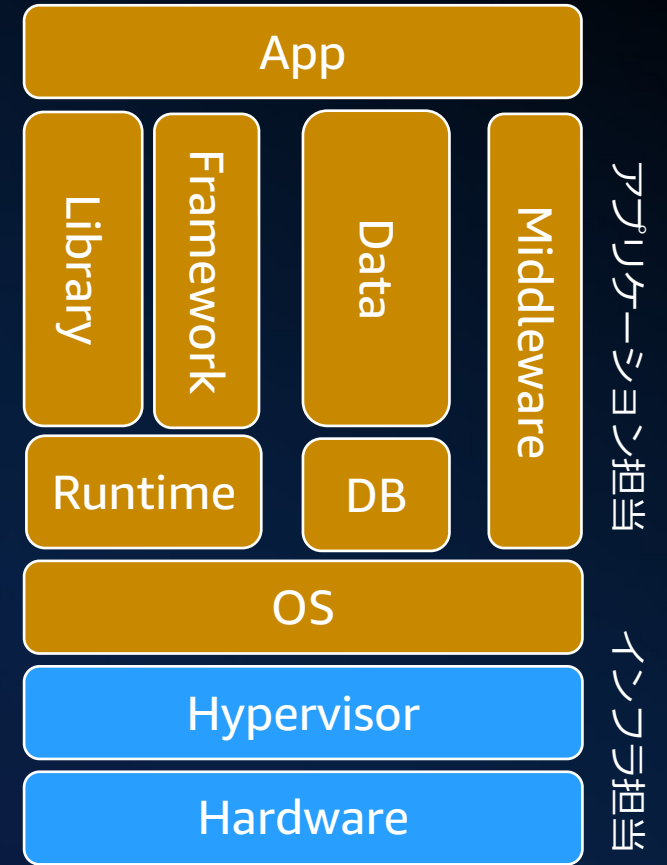
	Before (2022年)	After (2026年)
コード解析	人間が数ヶ月	AIが数時間
高度な知見の活用	職人技	AIが広く情報を収集
自動テスト	存在しない	AIがコードや仕様から自動生成
ドキュメント	存在しない・不正確	AIがコードから自動生成

2022年に存在していたモダナイゼーションの課題は
2026年 **AI-Driven modernization**によって解決可能に

AIを活用したモダナイゼーションが加速中

AI-Driven modernization =
従来は過大な工数やコストで断念していたモダナイゼーションを
AIによって実現すること

1. AIでアプリケーションを 最新化&最適化
2. AIによる自動テスト 生成で検証迅速化
3. AIによるSQL書き換えで 脱OracleDB加速
4. AWS Transformで脱 Windows & SQLServer
5. AIでメインフレームシステムの仕様生成 と再実装
6. AIによる障害調査の迅速化



一般的なシステムアーキテクチャと役割分担

AWS Transform

大規模な移行とモダナイゼーションのための初のエージェント型 AI サービス

GENERALLY AVAILABLE



VMware migrations



Full-stack Windows modernization



Mainframe modernization



Custom transformations

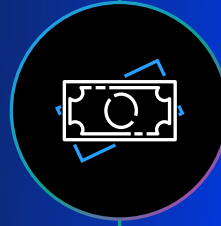
コード、API、フレームワークなどに対応し、any-to-any機能と標準搭載の変換機能（Java、Node、Pythonなど）を提供

AWS Transform for VMware

VMware ワークロードの移行を大規模に移行するための初のエージェントティックAI サービス



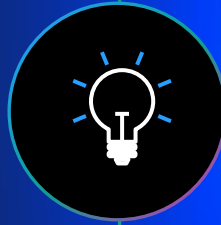
専用に構築された AI エージェントを使用し
VMware ワークロードの Amazon EC2 への
移行を加速



ライトサイジングとTCO削減によるコスト低減



セキュリティ、スケーラビリティ、レジリエンス
を強化



240 以上の AWS ネイティブサービスで
イノベーションを推進

Migration Evaluator



Migration Evaluator

※利用時には申請が必要。担当のソリューションアーキテクトがサポート



- 移行計画に必要な**評価およびビジネスケース**を作るための**無料サービス**
- ローカル管理者権限を持つWindows Server 2012 R2以降のサーバーに**エージェントレスコレクター**をインストール
- 日次の既存環境の**インベントリ**や**リソース使用状況**の把握
- 収集したデータをAWSマネジメントコンソール経由で手動アップロードも可能

VMware

バージョン4.1以降の
vSphere Web API
(TCPポート443)で
VMware vCenterと通信

Hyper-V

Windows Server 2008 R2
以降のMicrosoft Hyper-V
ホストと、TCPポート135
およびエフェメラルTCP
ポート範囲 49152-65535
で通信

ベアメタル

WMI、SNMP v2c、または
SNMP v3で各サーバーと
直接通信

SQL Server

T-SQL(TCPポート1433)で
各サーバーと直接通信

<https://aws.amazon.com/jp/migration-evaluator/>

Migration Evaluator : 移行評価レポート (OLA)

- データ収集完了後の5営業日以内に提示
- オンプレミスの取得データのインサイト(洞察)とコストの概算見積もり額を含む
- WindowsサーバとSQLサーバのライセンス最適化プログラム (OLA) の分析結果の提示
- 以下に関するコスト試算も可能
 - VMware Cloud on AWS
 - AWS DRSによるクラウドベースのディザスタリカバリ

aws migrations
Optimization and Licensing Assessment (OLA)
移行評価レポート
XXX会社 御中

AWSにおける移行の全体像

評価 → 準備 → 移行

エグゼクティブサマリー

スコープ	インサイト	結果	Nextステップ
Agentless Collector利用	Zombieサーバ:12%	ライセンスモデル	サーバ依存関係可視化
7日のデータ容量 (12/29 - 01/04)	Time In-Use:74%	最大コスト削減:77%	ストレージコスト分析
評価対象サーバ:23台	CPU使用率:20%未満:12%	AWS年間利用料: \$12,556 /年	ライセンスチェック

移行対象サーバ概要

オンプレミス環境 26 台サーバ

- 対象内のWindowsサーバ: 6
- 対象内のLinuxサーバ: 17
- ガバナリング済みストレージ (TB): 1
- ストレージ利用量の削減 (TB): 0
- SQLサーバ: 3
- SQLサーバ: 4
- Enterprise Edition: 4
- Standard Edition: 0
- Web Edition: 0

3年間の全額前払い標準RI - ライセンスBYOL

オプション	コンピュータ	ストレージ	ネットワーク	合計	Saving Plans 見積もり
共有テナント	\$10,623	\$586	\$1,347	\$12,556	\$1.21

3年間の全額前払い標準RI - ライセンス費用込み

オプション	コンピュータ	ストレージ	ネットワーク	合計	Saving Plans 見積もり
共有テナント	\$63,183	\$586	\$1,347	\$65,116	\$7.21

SQL Serverコア数削減によるコスト削減

プロパティ	オンプレミス環境のCPUコア数	Right-sized インスタンス上のコア数	CPU Optimization 適用後のコア数	SQL Consolidation 後のコア数	削減率 (AWSコア数)
SQL Enterprise	8	16	16	8	8
コア削減率 (%)					0
SQL Standard	0	0	0	0	0
コア削減率 (%)					0

SQL Serverコア数の削減に伴い将来的にSQL Server購入によるOSA (Software Assurance) 権利喪失時のコスト削減が可能になります。

1) Right-sized instances
オンプレミス環境のCPUコア数とAWSのコア数を比較し、コア数を削減します。

2) CPU Optimization
AWSのコア数を削減するためのCPUコア数を削減するためのコア数を削減します。

3) SQL Consolidation
SQL Serverのコア数を削減するためのコア数を削減するためのコア数を削減します。

お客様事例



自治体情報システム 三層分離でのクラウド活用

ガバメントクラウド

外部接続なし



個人情報の保管

ガバメントクラウド または AWS

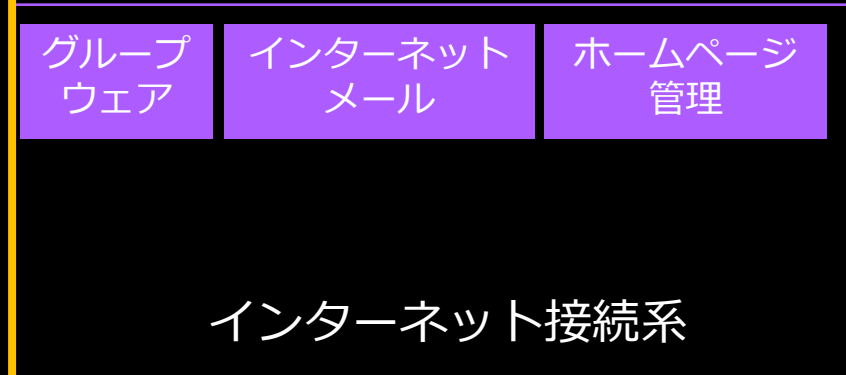
LGWAN へ接続



職員向け業務アプリ (LGWAN-ASP)

AWS

インターネットへ接続



住民向け公開サービス

中央区 ~フルマネージド型仮想デスクトップ・WorkSpaces導入~

- 業務システムのAWS移行に加え、**基幹系端末および庁内業務端末それぞれ**でAmazon WorkSpacesを利用中。
- オンプレVDI時代の**レスポンス遅延**や**サーバ管理の煩雑さ**を解消しつつ、**庁内端末ではテレワーク対応し業務環境も改善**。

事業の目的

- アクセス集中によるレスポンス遅延解消
- 機密情報の持ち出しが出来ないセキュア環境
- テレワークやウェブ会議等、職員の働き方改革

クラウド導入の効果

- **柔軟性、クラウドのスケラビリティ**
- **堅牢なデータのやり取り**
- **運用保守作業の軽減**

BEFORE

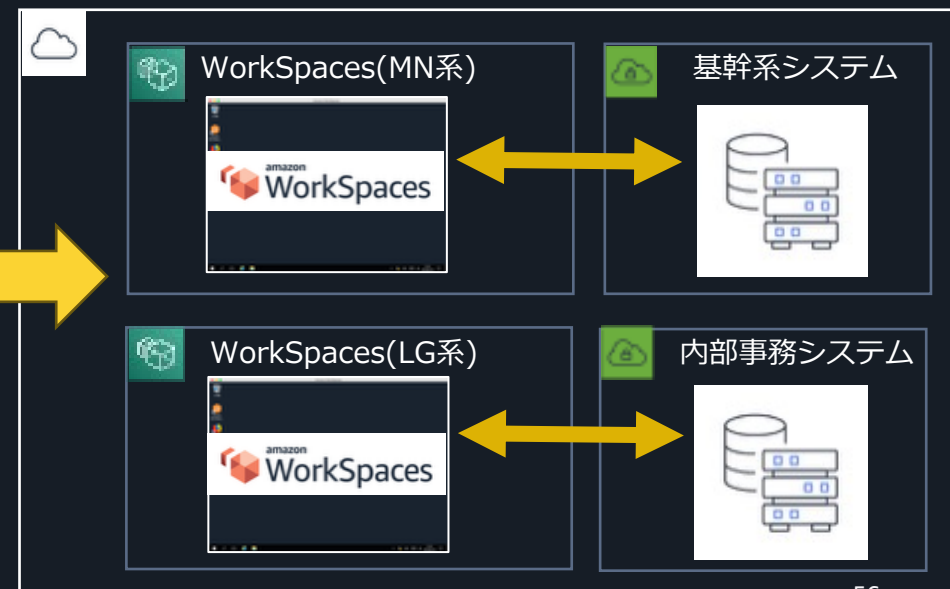


アクセス集中による
レスポンスが低下

AFTER



AWS上の仮想デスクトップ & 業務システム



岩手県、全 33 市町村の校務支援システムをシステム ディのサービスで統一。AWS 上の運用により教員負担を軽減し、セキュリティや DR も強化



お客様プロフィール

岩手県 **SystemD**

INDUSTRY
行政機関 / サービス

COUNTRY
日本

岩手県：県庁所在地は盛岡市。主な産業は米や畜産、林業のほか、リンドウやアワビの生産は全国 1 位。

株式会社システム ディ：京都市に本社、東京都、札幌市に支社を置くシステム開発会社。



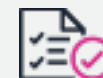
ビジネスの課題

- 校務支援システムの共同利用調達による効率化の促進



ソリューション

- 実績のあるシステム ディの校務システム『School Engine』を AWS 上に構築
- 岩手県で初めてAWSを全面的に活用する構成を採用



導入効果

- 災害時のデータ保管やインフラコストの低減、セキュリティの向上
- 迅速なインフラ配備による開発リードタイムの短縮
- 業務の標準化による教員の負担軽減

“ 県全域の統合校務システムによって教員の負担を減らして、子どもたちに向き合う時間を増やせるようにしていきたいです。クラウドの活用には、災害時のデータ保管やインフラコストの低減、セキュリティの向上など多くのメリットがあります。 ”

兼平 龍太郎 氏

岩手県教育委員会事務局 教育企画室 学校教育情報化担当課長

教育委員会・学校におけるマイグレーション実績

- 岩手県教育委員会様
 - 長崎県教育委員会様
 - 新座市教育委員会様
 - 名古屋市教育委員会様
 - 福岡市教育委員会様、等
- ※ 公開情報のみ掲載

同志社大学、AWS を採用して情報インフラの安定性とセキュリティを強化。多様な教育・研究の質の向上につながる先端技術の導入へ



お客様プロフィール



INDUSTRY
教育機関

COUNTRY
日本

京都府内の2つの校地に14学部と大学院16研究科を擁し、建学の精神である「良心教育」を基軸に、経済、政治、宗教、教育、社会事業といった幅広い領域で活躍する人物を輩出してきた。



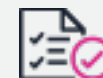
ビジネスの課題

- ネットワークシステム、ユーザ管理システム、教育研究支援システム、マルチメディアシステムの4系統からなる情報インフラの全体最適化



ソリューション

- ネットワークシステムとユーザ管理システムをAWS環境に展開
- AWS Application Migration Service (AWS MGN) を使った移行



導入効果

- 機器点検やシステム更新時のダウンタイム削減
- 全体的な調達とコストの最適化
- 災害対応環境の見直し
- 柔軟な配備によるシステムの安定稼働

“ ユーザ認証系のサービスや業務や教務の中心となるサービスのダウンタイムを大幅に短縮し、継続して提供できる環境を実現できました。 ”

高木 育史 氏

同志社大学 情報化推進部 情報基盤課 ネットワーク係 係長

大学におけるマイグレーション実績

- 同志社大学
- 近畿大学
- 京都大学
- 広島大学
- 立教大学、等

※ 公開情報のみ掲載

まとめ



まとめ

- ハードウェア価格高騰・納期遅延、仮想化ソフトウェアのライセンス体系変更等により現状のIT基盤の維持が困難になっているケースがある
- Claude Mythosに象徴されるAI時代のセキュリティ脅威が現実化している。一方で、政府はAI徹底活用を国家戦略として掲げた。守りと攻め、両面での対応が求められている
- これらの環境変化を踏まえ、マイグレーション先のIT基盤としてAWSを有力な選択肢としてご提案します

- ITリソース調達時間の短縮
- コスト最適化
- 継続的な値下げ
- 耐障害性と高可用性
- AI時代に対応するセキュリティ
- 最新AIサービスへのアクセス
- 移行を成功に導くためのソリューション

本日まで紹介したAWSのサービスやソリューションを御社のビジネスに活かすために検討をしたい、興味があるので詳細な説明を聞きたい、というようなことがありましたら、御社担当のPartner Account Managerに是非お気軽にご連絡ください。

Thank you!

